



クトゥルフ神話 TRPG

## 「DROPOUT DESPAIR」

—— ドロップアウト デスパイア ——

「死んでも、その言葉は残り続ける。」

# 目次

---

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| タイトル ……                 | 1   |
| 目次 ……                   | 2   |
| シナリオ概要 ……               | 3   |
| 注意事項 ……                 | 4   |
| HO 別事前情報 ……             | 5～  |
| シナリオ背景 ……               | 8～  |
| NPC ……                  | 10～ |
| 今シナリオの特殊処理 ……           | 14  |
| シナリオ ……                 | 15～ |
| あとがき ……                 | 61  |
| Special Thanks (DLC) …… | 62  |

## シナリオ概要

---

### 【シナリオ概要】

シナリオ「dropout despair（ドロップアウト ディスパイア）」

難易度：★★★★☆☆

人数：2人（またはタイマン）

必須：戦闘技能

推奨：目星、聞き耳

準推奨：医学、精神分析

時間：約4～6時間

舞台：現代日本

傾向：アウトローシティ、HOあり

キャラシ：新規限定

### 【HO】

#### HO1「届人（トドケビト）」

貴方は＜遺書屋＞の片割れであり、

書かせた遺書を、届けるべき場所まで必ず届ける者だ。

#### HO2「殺人（コロシビト）」

貴方は＜遺書屋＞の片割れであり、

遺書を書かせ、見届けたのちにその対象を必ず殺す者だ。

## 注意事項

---

### 【シナリオについて】

このシナリオは **2PL 固定、HO あり** のシナリオです。

また、このシナリオでは職業の指定がある「**犯罪者**」（アウトロー職）を使用します。必ず PL に概要を確認するように伝えるといいでしょう。

### 【タイマンについて】

このシナリオはタイマンでも可能です。

その場合、片方は KP 側で KPC を HO に沿った作成方法で新規作成してください。

KPC の生還後は、KP が PL の際に PC として使用していただいて構いません。

シナリオのギミック上、PC が HO2「殺人」、KPC が HO1「屈人」にすると、進行がスムーズにいくと思います。

### 【シナリオの扱いについて】

シナリオ自体を多少改変して遊ぶのは大いに結構です。

ただし、シナリオの根本に関わる改変や行き過ぎた改変（PL 人数を増やす、HO を増やす、逆に HO シナリオなのにハンドアウトを無くす、シナリオのイメージを壊すような改変）などはおやめください。

それに伴って、キャラクター作成の際に、**著作権キャラクターの画像を使ったり、実在の人物の写真などを使用する場合**、キャラクターメイクやそれに伴うプレイスタイルじゃ PL の自由ですし、KP はそれを確認して問題なければいいですが、それを SNS などにアップロードすることによってシナリオ未経験者にシナリオ本来とは別のイメージを与えてしまう可能性があるため、なるべく SNS でそういったシナリオイメージを崩してしまう発言やスクリーンショットを公開するのはご遠慮ください。何とぞご理解とご協力をお願いします。

動画化、リプレイ小説などはご自由にどうぞ。ただし、シナリオのネタバレに関する忠告は必ず最初に付け加えてください。また、商品利用や、二次配布は禁止させていただきます。ちゃんとルールを守って楽しく TRPG しような！

## 共通 HO

---

——貴方達は＜遺書屋＞と呼ばれている一風変わった殺人鬼だ。  
殺す人間、または死ぬことがわかっている人間に遺書を必ず書かせ殺した後、または死んだ後に、その遺書を必ず渡したい人物へと届け、姿を消す。  
この裏社会では貴方達を知らない者はいないだろう。  
何故ならその行動こそが、命を奪い続ける彼らには  
意味不明でおかしな行動なのだから。  
だけど、貴方達にとっては意味のある行動であり、  
そしてこれが貴方達の仕事だ。  
誰にも邪魔はさせない。

…そうしてまた誰かに、遺書を書かせるのだ。

### 【「遺書屋」PC 作成ルールと詳細】

- ・ステータスの振り方は通常の探索者と同じルールで振り分ける。
- ・今シナリオで作成する「遺書屋」は、特に職業技能を指定せず、好きな技能に職業 P を振り分けて良い。ただし、職業をしっかり指定して作成したい場合は、＜犯罪者＞で作成する。
- ・探索者たちは殺す前に遺書を書かせ、書かせた者を必ず殺し、そしてその遺書を必ず届けたい者に届ける、という一風変わった殺し方をする殺人鬼だ。探索者がどうして「遺書屋」になったのかは、PL 同士で相談し決定する。
- ・探索者のその変わった殺し方から、同じような者たち、いわゆる「裏社会」の人間たちには、貴方たちは相当なの知れた存在である。
- ・HO1 は遺書という存在に惹かれているが、HO2 は同じでも構わないし、遺書にさほど興味がないかもしれない。
- ・HO1 と HO2 は共に「遺書屋」として人を殺し続ける相棒同士だ。本心がどうであれ、互いのことを信頼しあっている。

## HO 別事前情報

---

このシナリオには HO が存在する。

今シナリオは**秘匿 HO シナリオではない**ため、セッション前にお互いに情報交換をするのはお勧めしないが、セッション中に PC が発言するのであればタイミング問わず情報を共有することは可能である。その為、ここでは秘匿 HO ではなく、

「**HO 別事前情報**」と表記している。事前情報は HO 別で各個人に渡すこと。

上記にもあるが KP は突然全員がいグループに事前情報を HO 二つとも送るのはお勧めしない。

なお、お互いに遺書についての情報が出るが、遺書の内容は PL が決定して良い。

PC らしい遺書を作ると良いだろう。遺書の内容は決めなくても進行上問題は無いが、あるとエンディングによるが描写する機会がある。

### ◆HO1「屈人ートドケビトー」

---

——あなたは<遺書屋>の片割れであり、  
書かせた遺書を、届けるべき場所まで必ず届ける者だ。

貴方は「遺書」という存在にとっても惹かれている。

死んでも残り続けるその「言葉」は、貴方に大きな影響を与えた。

それは過去に「遺書」に関係する境遇があったのかもしれないし、単純に死んでも残り続けるその言葉を好いているのかもしれない。

しかし、そんな貴方には一つ悩みがある。

それは自分の「遺書」を書くことができないことだ。

相手はもちろん相方である HO2 に宛てたものだが、

内容は決めているのにどうしても紙に書き起こすことができないのだ。

この裏社会では裏切りや殺戮は日常茶飯事だ。

信賴している相方も、自分だっていつ死んでしまうかわからないし、

自分達は「遺書屋」として名も知れてしまっているから尚更恨みを買うことだってあるだろう。

だから何かあったときの為に…と思ってはいるのだが、いまだに貴方の「遺書」は完成していない。その内容は貴方の頭の中だけにある。

## ◆HO2「殺人 -コロシビト-」

---

――貴方は＜遺書屋＞の片割れであり、  
遺書を書かせ、見届けたのちにその対象を必ず殺す者だ。

相方である HO1 は「遺書」という存在にとっても惹かれている。  
貴方もそうかもしれないし、さほど貴方は「遺書」という存在に興味がないかもしれない。

しかし、この裏社会では裏切りや殺戮は日常茶飯事だ。  
信頼している相方も、自分だっていつ死んでしまうかわからないし、  
自分達は「遺書屋」として名も知れてしまっているから尚更恨みを買うことだってあるだろう。

だからかもしれないが、貴方はいつも自身の「遺書」を持ち歩いている。  
自身が死んでしまった時のためにだ。もちろん相手は相方である HO1 に対してだ。

## シナリオ背景

---

事の発端はとある事故からだった。

とある男性「糸繰 彰人」は電車による交通事故で唯一の娘を亡くした。

糸繰 彰人はその悲しみからか、はたまた気が狂ったのか、「娘を蘇らせる方法」を探し始める。そのような非現実的な願望を抱くうちに、その男は裏社会のとある男と出会う。その男は糸繰 彰人に1つの本を渡し、「そこに記された通りにすれば娘を生き返らせることができる。」と言った。

男はその言葉を信じ、必死に本の解説を行うが、その本に記されていたのはグレードオールドワン「バグ＝シャース」の招来呪文だった。

その本を渡した男の正体は、同じくグレードオールドワン「イゴローナク」の人間化身だった。人間化身は常に化身に使えるような悪意ある人間の体を探しており、糸繰 彰人も娘のために悪に手を染める姿を見て、彼も化身の一つにしようと考えていた。

バグシャースが記載された本を渡したこと自体は特に意味はなかったのだが、糸繰 彰人は娘の亡骸を持ちその人間化身と共に人気のない廃教会でバグシャースを招来してしまう。

バグシャースは生贄に捧げた死体を蘇らせアンデットを作り出し、娘もアンデットに変えてしまう。糸繰 彰人は恐怖し、その場から逃げ出してしまうが、その場にいた人間化身は、面白半分でその少女に細工をし、バグシャースの力を持った落とし子のような存在、「ディスパイア」という亜種を作り出した。

一方目を覚ました少女（ディスパイア）は、自分が怪物であることも死者であることもうまく認識できてないため、アンデットやバグ＝シャースから逃げるために教会から出ようとした。少女はその際に、父親が緊急の際に用意しようとしていた紙（可燃性の特殊な紙）を持ちだした。

しかし、バグ＝シャースと同じディスパイアもまた光に弱いため、夕方の外の光に照らされた少女の殻を一瞬ディスパイアが這い出ようとし、少女はその時自身が人間でないことを確信してしまう。その直後、不運なことにその教会にバグシャースを招来した男の情報を別のものに収集することを頼まれていた自称商人、「白石 希空（しらいし のあ）」がそこに来てしまい、

少女は抑えられなくなったディスパイアにより希空を殺害してしまう。

ま不完全なディパイアはそのまま希空に寄生はせず、少女の体に戻ったが、希空の持っていたメモなどの記述から少女は「遺書屋」である探索者たちの存在を知る。



少女は自身を殺してくれる、そしてバグ＝シャースを退散できる方法とそれが出来そうな人物を探す為、街に降りる。

それを見ていたイゴーロナクは、遺書屋である探索者達と少女の接触に興味本位で行うことにした。希空の頭を使って希空になり代わり、探索者と接触、本を盗まれたと嘘をつき、今回の動向を眺めている。

途中までは愉悦に浸るつもりだったが、悪意ある体を求める彼は最後に HO1 を助ける代わりに HO2 の体をよこせと言ってくるだろう。しかし、デイスパイアには権限という特殊な能力が発生してしまい、遺書に惹かれる HO1 にデイスパイア寄生した影響で探索者達の周りで発生した死体からはその頭の中から言葉や情報が血文字として見えるようになってしまった。

両者ともに明日への道を切り開くためには、イゴーロナクの人間化身となった希空に勝利し、デイスパイアを取り除かねければいけない。

未来でもまた「遺書屋」として言葉を残し続けるために。

なぜならば、貴方達にとって遺書は特別なものであり、これは意味のある行動だと信じているからだ。たとえ他の者がその行動をおかしいと笑っても。

…神がそれを笑ったとしてもだ。

## NPC

### ▶白石 希空（しらいし のあ）

【自称商売人。裏社会の人間】

男性 25 歳 犯罪者

#### 【ステータス】

Str : 13

Con : 12

Dex : 14

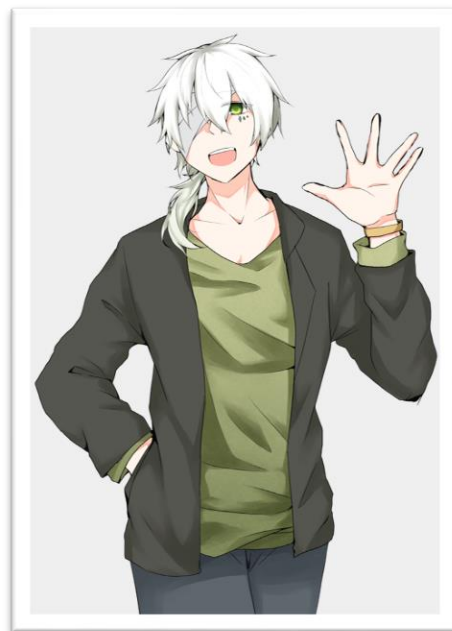
Pow : 15

App : 9

Int : 15

Siz : 15

Edu : 18



#### 【詳細】

・探索者達「遺書屋」とよく取引をしている男性。

彼もまた裏社会の人間であり、主に行なっている仕事は人身売買や麻薬取引、武器の密輸入などだ。武器の取引などで探索者も何度か取引を行なっている。

・そういった仕事をしていると言う所を除けば、表上は誰にでも明るく振る舞う好青年。困っているおばあちゃんをおんぶしたりもする。捨て猫拾ってくるタイプ。

・しかし今回、シナリオ開始時ではすでに本当の「白石 希空」は最初のデイスパイアである糸操 奈々（いとくり なな）に殺害されている。

探索者がシナリオ内で会うのは、本当の希空ではなく、その体に乗っ取った「イゴローナク」だ。

・余談だが片目は過去の仕事関係の怪我で失っていることを探索者は知っていだろう。本人曰く攻撃を避けきれず失明したらしい。ただし、希空の話でしか聞いていないので、それが本当に事実なのかは分からない。

また、いつも金で装飾された小さなライターと金のブレスレットをつけている。別に金色が好きなのではなくこの仕事を教えてくれた師匠から貰ったものだそう。

## ▶イゴーロナク

【グレードオールドワン、悪意に宿るもの】

マレウスモンストロム p.137

(ステータス微改変あり)

### 【ステータス】

Str : 13

Con : 12

Dex : 14

Pow : 28

App : 9

Int : 30

Siz : 15

Edu : 18



HP : 38

DB : なし

### 【技能】

手で貪り食う : 80% … 戦闘内で治癒不可の 1d4 ダメージ (戦闘内では治療できないが、シナリオ終了後は回復可能)

回避 : 30% (1R で 2 回避可能。1 回目は通常値、二回目は半分 (15%) で行う。)

### 【詳細】

・今回の事の発端。現在は探索者の知り合いである「白石 希空」の頭を使って彼に成り代わっている。探索者がディスパイアと接触し試行錯誤してる様を傍観しているが、のちに HO2 を次の人間化身にするため、HO1 を助ける代わりに HO2 の身体をよこせと言ってくる。

・まだ希空の体で人間化身となったばかりのため、ステータスは少々弱体化してある。

・希空の前に別の男の体を人間化身として使っていた。  
その時「グラークの黙示録十二巻」の影響により糸繰 彰人と接触している。

## ▶糸繰 奈々 (いとくり なな)

【故人、最初のディスプレイア】

女性 10 歳 少女

### 【詳細】

・数ヶ月前に交通事故で死亡したはずの少女。  
今回父親が招来したバグ＝シャースによって  
蘇らされ、ディスプレイアの最初の寄生先と  
なってしまった。

・バグ＝シャースやアンデット達を見てきて  
ちょっとした事では  
驚かなくなっている。

そのため、遺書屋である探索者達を見ても驚かず、  
むしろバグ＝シャースを退散してもらうために遺書らしき紙を探索者たちに渡すが、  
彼女の体は小さく、ディスプレイアに耐えられずに探索者と接触後に崩壊、ディスプレイアは HO1 に寄生してしまう。

・彼女もディスプレイアのため、ディスプレイアの権限を持つが、  
どのような影響をもたらすかはこのシナリオでは明かされない。



## ▶糸繰 彰人（いとくり あきと）

---

【死者を蘇らせようとした者、墮落した男】

### 【ステータス】

STR：10

CON：11

POW：7

DEX：7

SIZ：13

HP：12

DB：なし

### 【技能】

武器：ナイフ（25%）：1d4 ダメージ

### 【詳細】

・今回の案件の根本的原因である人物。

「グラークの黙示録十二巻を手に入れイゴーロナク（希空の前の人間化身）と接触してしまい、事故で死亡した娘である「糸繰 奈々」を蘇らせるために、バグ＝シャースを招来してしまった。

・探索者のことはイゴーロナク（希空の前の人間化身）から聞いているため、警戒はするが戦闘には慣れていないただの一般ピーポー（一般人）である。

## ▶バグ＝シャース

---

【闇と共に来るもの】

マレウスモンストロム p.234

### 【ステータス】

Str：50

Con：45

Dex：10

Pow：25

Int：15

Siz：65

HP：55

DB：6d6

### 【技能】

覆いかぶさる：60% … 探索者を飲み込もうとする。成功した場合は＜組付き＞状態となり、溺れのルールに従う。

### 【詳細】

・グレードオールドワン。今回死者を蘇らせようとする糸繰 彰人の招来によって呼び出された。呼び出されたその場から全く動いておらず、近くにいるものを全て贅と認識して攻撃してくる。光による退散が可能。

## 今シナリオの特殊処理

---

### 【戦闘での特殊ルール】

- ・自分たちで殺した人間や血液などを見ても容易に SAN チェックは発生しない。

(ただし、人外など例外有り)

- ・貴方達は「遺書屋」と言われる特殊な殺人鬼だ。

自分たちは、少なくとも HO1 はこの殺し方を好んでいる。

貴方達は対象を殺す前に、遺書を書かせなければいけない。

今回のシナリオで**相手が人間**だった場合、戦闘で相手の HP 以上のダメージが出て、相手の HP は 1 残る描写となる。

### 【ディスパイアの処理】

- ・HO1 はシナリオ終盤からディスパイア（バグ＝シャースの落とし子の亜種）に寄生されてしまう。HO1 はディスパイアに寄生されてから解放されるまで、**光を嫌がるようになる**。もし至近距離で光を HO1 に当てるならば、**回復不可のダメージ**を受けてしまう。

今シナリオでは可燃性の特殊な紙は 3d8、ライターは 1d2 街灯は 1d4 ダメージとなっている。それ以外のダメージは KP が任意で決定して良い。

- ・また、ディスパイアには「**権限**」というものが存在し、HO1 に寄生している影響で探索者達の周りで発生した死体からはその頭の中から言葉や情報が血文字として見えるようになってしまっている。

# シナリオ

以下からシナリオ本編となります。

シナリオの記載方法については以下の通りです。シナリオを読む前に確認しておくと思ひやすいと思います。

## 【シナリオの読み方】

【描写】＝シナリオ内の描写です。この通りではなくても、  
KP の改変を加えても構いません。楽しく KP するのが一番ですから、  
回しやすいようにアレンジするのも楽しみの一つです。

▼SAN チェック＝SAN チェックは赤色で記載されています。  
SAN 値は投げ捨てるもの。

●（丸記号）＝シナリオ内で区切られているポイントです。  
シナリオ内で必要な情報や、調べられる場所が記載されています。

▶（三角記号）＝シナリオ内で発生するイベントや特殊処理です。

※KP 情報＝囲い線に「※KP 情報」と書いてあるものは KP 用の情報です。  
PL には絶対に開示しないでください。

囲い線＝灰色の囲い線は手記や日記など、PL に開示できる文章情報です。  
コピーして使用してください。スクショでもいいけどうっかり  
KP 情報写すなよ？シナリオ終了するぞ????????



## ▼独白

---

### 【描写】

——ここは光の届かない墮落した世界。

殺し、裏切り、軽々しく命の取引がされるこの場所に、とある噂が流れ始める。

それは、不思議な方法で人を殺める「遺書屋」というもの…

そう、貴方達の事だ。

「遺書屋」と呼ばれている貴方達は一風変わった殺人鬼だ。

殺す人間、または死ぬことがわかっている人間に遺書を必ず書かせ殺した後、または死んだ後に、その遺書を必ず渡したい人物へと届け、姿を消す。

この裏社会では貴方達を知らない者はいないだろう。

何故ならその行動こそが、命を奪い続ける彼らには意味不明でおかしな行動なのだから。

だけど、貴方達にとっては意味のある行動であり、

そしてこれが貴方達の仕事だ。

誰にも邪魔はさせない。

…そうしてまた誰かに、遺書を書かせるのだ。

死んでも、その言葉は残り続ける。

## ▼導入

### 【描写】

——時刻は 22 時。太陽が沈み光のない場所は暗闇に包まれる時間だ。  
その暗闇の中で、貴方達はまた一人の人間…「ターゲット」を追い詰めた頃だった。  
目の前にいる暴力団の下っ端である男は、もうともに戦うことは出来そうにない  
が、かろうじてまだ腕は動かさそうだ。

「お前らッ…すぐに殺さないと思えば…遺書屋か…！？」

男は貴方達を睨み付ける。

どうやら貴方達のことを知っているようだ。男はまだ反抗しようとするようだが存在  
を知っているなら話は早いだろう。やることはまだある。

…貴方達は、「遺書屋」。

遺書を書かせ対象を殺し、その遺書を届ける者達だ。

### ●導入

・探索者はこのシナリオ開始時点で、とあるターゲットを追い込んだところであり、  
これから遺書を書かせるシーンとなる。

導入の遺書屋らしい RP をするといいだろう。

男は探索者達に追い込まれ、もう腕しか動かすことができない。

「こんな所でッ…！」となんとか立ち上がり逃げようとしたり、最後の力を振り絞っ  
て抵抗しようとする描写を入れても良い。

その場合は探索者にフレイバーで戦闘技能を振らせてさらにダメージを与え、恐怖に  
追い込んで男に遺書を書くように促すと良い。

それ以外の方法でも構わない。探索者の目的はターゲットに遺書を書かせて殺すこと  
だ。

・男に恐怖感を与えたり、怪我をさらに与えようとすればすぐに男は諦め、  
遺書を書き始める。男は悔しそうに全ての文を書き終えたと、  
「これを…長に…渡してくれ……」と遺書の届け先を告げる。

### ※KP 情報

いわばこの導入は探索者達が遺書屋としてどう動いているか、つまり日常パートの  
ようなものだ。もちろん、この後に神話的事象に巻き込まれることになるが、  
ここでは探索者達の遺書屋としての RP を楽しんでもらうようにすると良いだろう  
描写としては小さな組の下っ端（暴力団組員）という想定だが、  
この導入に関して KP はターゲットや状況など自由に改変して構わない。

- ・男に遺書を書かせた後は、男は潔く諦め

「殺すなら早く殺せよ…遺書屋…」と言ってその場から動かなくなる。殺すならば男は抵抗することなくすぐに息絶えるだろう。

●男を殺した後

- ・後始末などは全て完了したことで構わない。返り血なども、隠すか服を変えるなどしてバレないようにできる。もしダイスを振りたい場合は KP が任意のロールをさせてちゃんと隠蔽できたか判定しても面白いかもしれない。

（ファンブル？…あー…近くをお巡りさんが通るんじゃないかな…逃げようね！！！！！！さもねえと豚箱エンドだ！！）

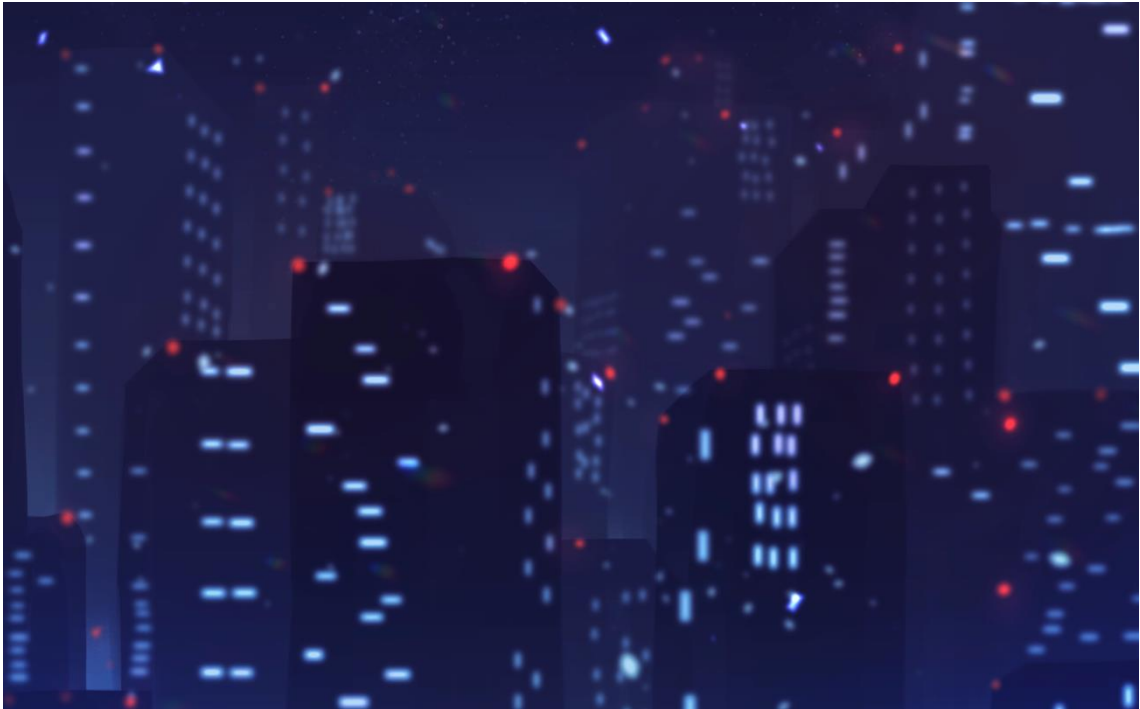
## ▼夜の街

---

・今日はこの男が最後のターゲットであり、探索者達はこの後帰路につくことになるが、戻ろうとした際に探索者達は街中に出る（または近くを通ることになる。）以下の描写を行う。

### 【描写】

——貴方達がその場を離れて街を通る際、そこにはネオンと街灯の光が街を照らし出している。22時だというのに街の中心は非常に賑やかで、酔っ払ったサラリーマンや奇抜な髪型と格好で出歩く若者達、家を抜け出してタバコを吸う不良たちやようやく帰路につくことができる会社員…様々な者たちとすれ違う。しかしその誰もが貴方たちの本性を知るものはいないだろう。貴方たちは彼らとは違い法律を無視したやりとりが行われる闇の場所…いわば「裏社会」の人間だからだ。そんな貴方たちもまた、まるで一般人かのように振る舞えば、彼らと何の違いもないのだ。その本性を除けば…だが。



- ・描写終了後、すぐに探索者達は<目星>判定を行う。

### <目星>成功情報

- ・ふと街中を歩いていた時近くの建物と建物の間、小さな路地裏に視界に入る。  
その路地裏の奥に、ボロボロのローブを羽織った素足の男数人がおり、  
路地裏の奥へ走っていった姿を見ることができる。

### ※KP 情報

このローブの男達はバグシャースの影響を受けたアンデット達だ。  
後に▼迎えるは死者で戦闘を行うことになる。  
なぜ今ここにいるのかというと、バグシャースに贅を用意するためにあたりをうろついているのだ。しかし彼らも光が苦手なため、街中に出ようとはしない。  
彼らはこの時点で追うことはできない。この描写はあくまで後に戦闘を行う者達の姿を把握するのが目的であるからだ。（失敗したら見えないけどね）  
もし無理にでも追おうとする場合は、すぐに白石希空のシーンを入れること。

### ▶白石 希空の声

- ・目星に成功失敗関わらずふと探索者の方に  
「あれ～？「○○ちゃんと○○ちゃんじゃん？」と声をかけられる。  
探索者はその声に聞き覚えがあり、振り返る。以下の描写を行う。

### 【描写】

——貴方達が声のする方向を見やると、そこには片目部分に包帯を巻いた、  
金色のアクセサリーが目立つ男がこちらに手を振っていた。  
貴方達はこの男に見覚えがあるだろう。彼は「白石 希空（しらいし のあ）」という  
人物で自称商人と名乗っている。  
彼も貴方達と同じような「裏社会の人間」であり、彼が行なっているのは  
人身売買、麻薬取引、武器の密輸入…など金銭関係がほとんどで、あまり荒事は好ま  
ない。しかし、逃げ足だけは非常に早いやつだ。

### ●白石 希空という男

- ・探索者に声をかけてくるのは「白石 希空」という男だ。  
探索者も何度か武器の取り引きなどで関わりがある人物である。  
彼は貴方達の名前を呼ぶとにこやかに挨拶をしてくるだろう。

しかしその表情はどこか浮かないようで、笑っているがどこか目は笑っていない。  
<心理学>をすることなくそれはわかっていいだろう。

・もし彼に何かあったか聞くのであれば、彼は少し悩んだ後に  
「うーんとね…あっ、そうだ！ちょっと君たちに頼みたいことがあるんだ…少し話を聞いてくれない？そんな荒事じゃないし、ちゃんと依頼料は払うからさ！」と突然促してくる。しかしそんな彼はどこか必死そうであり、嘘をついているようなそぶりも無い事は分かって良いだろう。

・聞かない場合、又はどうして声をかけたか聞いた場合も同様に、少し頼みたいことがあると話を持ちかける。

探索者達が了承したのをみて、「ここじゃアレだしさ。話しやすいところに行こう」と希空の後ろ手にある路地裏を小さく指差すだろう。

#### ※KP 情報

希空はこの時点で本来探索者が知っている「白石 希空」ではなく、イゴーロナクになり変わられているが、この時点で見分けることはできない。探索者をたまたまみつけ、ちょうど困っていた為依頼をするという流れなので、探索者が断ろうとする場合も、多大な報酬などを言わせて誘い込むといいかもしれない。彼は自称商人だが、やりとりを行っている探索者なら彼がこういったことでもちゃんと報酬は支払う奴であることを知っていて良い。

もちろん、困っているというのもこの先の▼小さな依頼に依頼をしてくる「本が奪われた」というのも全て嘘であり、イゴーロナクは探索者とディスプレイを興味本位で接触させるためこの話を持ちかけているのだ。

## ▼小さな依頼

---

### 【描写】

ーネオンや街灯で照らされた大通りから少し離れ、  
建物の間に出来上がった小さな路地裏に入り込む。暗闇の中チカチカと点滅する切れ  
かかった蛍光灯の光だけが貴方達を照らし出す。

夜でも賑やかだった街から少し離れただけのこの場所は、街の賑やかさは嘘だったか  
のように静まり返り、貴方達以外に人の姿は無い。

誰かが捨てたゴミが積み重なったゴミ捨て場をぬけ、電気のついていない自動販売機  
の隣にある寂れたベンチに希空は腰をかけ、近くの別のベンチに探索者を促す。

いつも持ち歩いている金色に装飾されたライターでタバコに火をつけると、  
彼はため息混じりの吐息で煙を吐くだろう。

「いやぁ…困ったことになってね…

頼みたいことなんだけど、実は今日取引先と「とある本」の取引を行う予定だったん  
だけど、それを運んでいる途中……てかついさっきさ、それを取られちゃったんだよ  
ね………

赤いカバーの本で、取引の関係で僕も中身はわからないんだけど…」

「それで、見つからないし途方にくれてたらたまたま遺書屋さんたちを見つけたワ  
ケ。こちらからの依頼ってことでさ、報酬は払うから！その奪ったやつ探して本を取  
り返してくれない…？そいつの殺し方も君たちの好きなように構わないし、どうか頼  
まれてくれないかな…？お願いっ！」

彼はにこりと微笑むが、やはり目が笑っていない。

探索者達が知っている限りでも、いつも笑顔を絶やさずどこか掴めない彼がここまで  
きているということは、相当彼にとってまずいのだろう。

### ●希空からの依頼

・路地裏についてきた探索者達に希空はとある依頼をしてくる。

「今日とある取引先と本の取引を行う予定だったが、つい先ほど奪われてしまったの  
で本を取り返してほしい」というものだ。

・本さえ奪い返してくれば、本人は殺しても構わないという。

殺し方も探索者の自由で構わないと希空は言うだろう。

・依頼を受ける受けないを判断する前に彼に質問するのであれば、彼は快く答えてくれる。もしすぐに依頼を引き受けたと言った場合は、「本当～！？いやぁ…本当助かるよ…！報酬とおまけしてまた新しい武器も用意しておくね！」ととても安心した表情で喜ぶだろう。以下は質問と回答の一例である。

### ●質問 Q &A

Q：本はどんなもの？

「分厚い赤いカバーがついた本で、中身は結構古めの古書だったね。日本語じゃなかったからタイトルはわからないんだ…

依頼先からも「ただ運ぶだけでいい」って言われたしね…」

Q：依頼先（取引する相手）は？

「とある連中のお偉いさんだよ。たまに依頼を受けるんだけどさ…

ちょうどこれから取引の予定だったから、怒られるだろうなぁ…いや怒られるだけで済めばいいけど…あはは…」

やはり目が笑っておらず、深いため息をつくだろう。

#### ※KP 情報

最初取引先を疑う探索者もいるかもしれないが、今回の件に関しても何も関わりがない。なんならこの話はイゴーロナクによる嘘である為、そもそも取引しないのである。

Q：本を奪った奴はどんな奴？※

（この質問は後の描写にも出てくる為、なるべく描写すること）

「それがさ…僕も注意はしてたつもりだったんだけど、さすがにあればびっくりしたよね…普通に単身で突っ込んできて勢いのままに奪われたんだもん…」

「いや、ね？実は言った通り隠密も援護も何もなかったワケ。つまり多分一般人なんだよね…動きも慣れた感じじゃなかったし。」

「特徴としては茶色い帽子とトレンチコート、白髪のおっさんで、歳は 40 後半くらい…？あ、そうそう、あと首から緑色の石がついた大きめのペンダントを下げてたよ。

特徴としてはこれくらいかな…？」

「ついさっきだし、多分まだ近くにいると思う。奪われた場所あっちね。」と場所も教えてくれるだろう。



Q：希空はどうして自分で探さないのか？

「いやぁ、さっきも言った通り、「今日」取引予定だったんだよね…

だからこれからその取引先にひとまず無いことを伝えなくちゃなんだよね…もうすぐ取引時間だし…」

と言って笑うが目が笑っていない（n 回目）

#### ●引き受けた後

・探索者が依頼を受けるなら、彼は「いやぁ…ほんと助かるよ…！報酬は多めにしておくね！」と笑うだろう。

彼にある程度質問したのであれば、彼は携帯の時刻を確認して青ざめた顔をしながら

「ああ…ごめんそろそろ本来取引する時間だから、僕はここで失礼するね…

じゃあ依頼の件よろしく！僕はこれから連絡してもしばらく出られないだろうから、

まぁ何か報告あれば明日以降お願いしますよ！ま、まぁ僕が生きてたらだけだね…

あはは…」と言って探索者に手を振り、去ってしまうだろう。やっぱり目は笑ってないし、どこか笑顔が引きつっているのが分かるだろう。

#### ※KP 情報

以降この後から希空と連絡をとることはできない。

明日以降と言っているが、これからディスパイアになってしまう HO1 の関係上、朝になってしまった場合タイムアップとなってしまう **▼BAD END** となる。

そもそも、連絡を入れたところでもう彼は出ることはないだろう。当の本人は死んでるのでね（震え声）

## ▼本を奪った男

・探索者が希空の依頼を受けた後、希空が言っていた現場の近くを探す、または別の場所に向かおうとした際に、本を奪ったらしき人物を偶然発見する。

以下の描写を行う。

### 【描写】

——ふと、誰もいない住宅街の先、古い小さな居酒屋の前で二人の男が揉めているのを発見する。そこには、かなり酔っ払っているのか顔を真っ赤にしてネクタイを頭に巻いたサラリーマンと、その前でどこか焦った様子で話をしている帽子の男がいる。しかし、その男をよく見ると、茶色い帽子にトレンチコート、そして首からは緑色の石のついたペンダントを下げているのが分かる。

…希空の言っていた特徴と一致する。どうやらずいぶんと早くターゲットが見つかったようだ。

・酔っ払っているサラリーマンは

「おいお前え～ぶつかってきたんだから謝れって言ってんだろぉ？おおん？」とクソくだらないことで帽子の男に突っかかっている。

対する帽子の男は「いいからどいてくれないか…急いでいるんだ」

とその場から立ち去ろうとしたいようだが酔っ払いに邪魔されているようだ。

・もし探索者が近づくのであれば、男は探索者を見るなり「…ッ！遺書屋…！？」と青ざめた顔で言う。「すまないッ！通してくれ！」と酔っ払いを押し除けて人気のない場所へ逃げてしまう。距離が離れているわけではない為そのまま追うことができるだろう。

### ※KP 情報

男は裏社会の人間ではないが、イゴーロナクが希空ではない別の人間に扮していた時話を聞いているため、まだ殺されたくないという思考で逃げ出したのだ。

しかし、男の足は遅い（DEX7）の為すぐ追いつくことができるし、男が逃げ込んだ先は行き止まりである為、男を見失うことはないだろう。

## ▼男との戦闘

### 【描写】

——男は貴方達から距離を離そうと男は入り組んだ路地に入る。廃墟などが目立つこの付近は、おそらく貴方対以外に人の出入りはそう無い区域だろう。

無論、もう深夜となった今なら尚更だ。男はそれを知らないのかさらに奥に入り込むが、男の足音や息を切らすその音を逃さず、まるで獲物を狩る獣の如く貴方達は追跡を行うことができるだろう。

やがて男は奥に入り込みすぎたのか行き止まりにたどり着いてしまう。

「くそっ……！」

男はすぐに引き返そうとするが、すでに貴方達は男に追いつくことができる。

2人に追い込まれ、男は焦ったように小さなナイフを向けてくるだろう。

しかしその手は震えており、殺意があるもののどうやら戦闘には慣れてない本当にただの一般人のようだ。

相手が殺意を向けたのであれば同然、貴方達も戦闘態勢を取る。

「殺し方は問わない」と言われている。まずは貴方達が目的とすること…そう「遺書を書かせる」ために動けなくするのが先決のようだ。話は…それからだ。

### ※KP 情報

描写の後、男との**戦闘ラウンド**となる。

戦闘前に男に本について聞こうとしても、「お前ら遺書屋だろ…！殺そうとする奴らに話すことはない…！」と質問に答えようとしな。そのまま襲いかかってくるだろう。

また、この戦闘では[今シナリオの特殊処理 \(p.15\)](#)における

【戦闘での特殊ルール】を使用する。男をもしオーバーキルしてしまっても HP が必ず1残る。

描写としては峰打ちや、最後の一撃で少々軌道を逸らすなどして動けない状態にするという形になる。遺書を書かせるためですからね。仕方ないね！楽には死なせんよ (by 製作者)

ステータス【帽子の男、糸繰 彰人】

STR：10

CON：11

POW：7

DEX：7

SIZ：13

HP：12

MP：7

DB：なし

武器：ナイフ（25%）：1d4 ダメージ

## ●戦闘終了後

### 【描写】

——貴方達が男に致命傷を与えれば、男はまだ息はあるもののもう体をろくに動かすことはできなくなるだろう。

「くっ…」男はただ地面に血塗れの手をついて自身の体重を支えるので精一杯の様子だ。かろうじてもう片手も使えそうだと思うだろう。

### ※KP 情報

ここからお楽しみ（？）の遺書を書かせる場面である。

冒頭で登場した下っ端とは違い、男は紙を渡されれば抵抗することをすぐに諦め遺書を書くだろう。もう自分ではかなわないと遺書屋の恐ろしさをはっきりと知ったからだ。遺書を渡すシーン、そして書き終えたのちに殺すシーンなどは、PLの行動宣言も含め遺書屋達の好きなようにRPさせると良い。

・男は紙を渡されれば抵抗するのを諦めたかのように遺書を書くだろう。  
表情はただ暗く、しかしもう悔いを残さぬようにその最後の文字を書き残していく。  
遺書の内容はここからだと言文字が小さく見ることができない。  
（もし受け取ったのちに見るのであれば後ほど開示する男の遺書の情報を先に開示しても良い）

・男は遺書を書き終わると探索者達に遺書を渡し  
「これを…娘に渡してくれ。黒い髪で赤い目の少女…名前は「奈々」と言う。」とだけ言うとそれ以上はほとんど話さなくなる。

・男に本のことを聞くのであれば、「赤いカバーの本…あれか」と言うと  
男は血塗れの手で財布をポケットから出すと床に投げ捨て、  
「私が今住んでいる所に隠してある…持っていくなら持っていけ。場所はここから遠くない。」と諦めたように言うだろう。

財布を確認してみれば、男の住所が書かれた身分が特定できるものを見つけることができる。

#### ※KP 情報

もし「なぜ奪ったのか？」などの質問をするのであれば、男は少し不思議そうに「奪った…？私とはある男からその本をもらい受けたただけだが…？」と答えてくる。この時点で希空の依頼と食い違いが起きていることに探索者は気づいていいだろう。しかし帽子の男が言う「本を渡した男」の特徴を聞いても誰とも一致しない（以前イゴローナクが体を乗っ取っていた別の人物だからだ）

帽子の男はそれ以上詳しいことを話そうとはしない。負けたとはいえこれから殺される人間に多くの情報を渡したくないのだ。

もし探索者が拷問してでも突き止めようとするならば、「本は翻訳を残してあるがそれ以外には貰った時とそのままの状態だ。何も弄ってはいない。その本とあの男が目的なら、それを調べればあの男が残した形跡もあるかもしれないから好きに調べればいい。」とだけ言うだろう。それ以上はもう何も言わなくなる。

・男にもう用がないと判断し、殺すのであれば

男は抵抗せずにそれを受け入れ、「ああ…奈々…すまない…」と最期の言葉を残して絶命するだろう。

・後処理や掃除などは幸い人の全くいない場所であるため人目を気にせず

すぐに済ませることができる。ここで一通り RP や処理が終わったら

探索者達は<目星>または<聞き耳>を行う。

#### <目星>成功情報

・ふと、この路地の奥に小さな少女がいることに気が付く。

貴方達の行動がバレていたようだ。その赤い瞳の少女と目があった瞬間、

少女はすぐに逃げていってしまう。

#### <聞き耳>成功情報

・奥から「おとうさん…」と言う少女の声が聞こえる。

そちらに視線をやると赤い瞳の少女がこちらの行動を目撃してしまったのか

すぐに逃げてしまう。

・もしお互いが技能に失敗してしまっても逃げ出す小さな足音くらいは聞こえてもいいだろう。

少女は黒い髪、そして赤い瞳の少女だ。

男が言っていた遺書を渡すべき少女と特徴は一致するが、この現状を見られてしまった以上、追いかけていかなければいけないだろう。

## ▼少女

### 【描写】

——見られた。それに確信がついたのであれば放っておく訳にはいかない。  
少女を追っていけば廃墟が立ち並ぶ路地の奥、開けた場所で彼女は転んでしまう。  
貴方達が追ってきたことを少女は認識すると、赤い瞳でまっすぐ貴方達のことを見つめ、そして尻餅をついた状態から立ち上がるが、それ以上逃げようとはせず、抵抗することも無いだろう。少女はただ、貴方達を見つめ何かを握りしめている。その手には遺書にも似た、白く折り畳まれた紙が握られていた。

### ●赤い瞳の少女

・少女は探索者に追いつかれるとそれ以上逃げようとはしない。  
ただ探索者達を見つめ「遺書屋さん…？お父さんを殺したのは、貴方達？」と聞いてくる。  
その表情は不思議なことに戸惑いは見られるものの、怯えた様子は見受けられない。

#### ※KP 情報

少女（奈々）はそれよりも怖いものを見ている（バグ＝シャースを直で目撃している）ため、今は怯えの表情はあまり見られない。  
むしろ遺書屋であることも希空（本物）の遺体にあったメモから確認しているため、遺書屋である探索者達ならバグ＝シャースをなんとかできるかもしれないと考えているのだ。その考えから現在手に持っている遺書（可燃物となる紙）を渡して去ろうとするが、時間がきてしまい▼絶望させるものでディスプレイが少女の殻を破って出てきてしまう。

・父親の遺書を渡すのであれば少女はそれを受け取るが、彼女に質問しようとしても、時間がないことがわかっているため少女は一方的に話をしようとする。「時間がないの。この遺書をね…」と探索者達に何かお願いをしようとした瞬間、何かが脈打つ音が聞こえる。

▼絶望させるものの描写を行う。

## ▼絶望させるもの

---

### 【描写】

——少女が何か言おうとした瞬間、大きく何かが脈打つ音が聞こえた。

それは確かに少女の内側から聞こえてきたものだが、貴方達の耳元にまで届くほどに大きなものだった。

「あ…まだ…ダメなのに…時間がない…誰か…！誰か私に光を…！」

少女は震える言葉を零し、青ざめた顔で自身の体を抑える。

しかし彼女の背中からまるで何かが殻を破るかのように肉が膨張し、やがて彼女自身では抑えきれなくなったそれが、小さな体を破って這い出たのだ。

…勢い良く少女の体を突き破って這い出たそれは、頭上に浮かぶ月を飲み込もうとするかのように高く、大きな存在だった。その少女の小さな体とは釣り合いな大きさのそれは夜よりも深い漆黒の塊で、口や目のような器官を生成しては、その目が一斉に HO1 を見やった。

その瞬間、何か言葉を発する前にそれが振り下ろされたのだ。

高く伸び、質量のあるその漆黒の塊が振り下ろされた時、ぐしゃり、と何かをつぶした音を聴いた頃にはすでに HO1 の片腕は存在していなかった。

それは HO2 が動く隙も与えずもう一度振り下ろされる。

もう片腕、次は肩をえぐり、バランスを崩した瞬間に片足を、そして胴体を…………

何度も何度も振り下ろされるそれは、最後に HO1 の頭を叩き潰した。

そしてその瞬間ようやく HO2 に脳が現状を理解する。しかし理解した瞬間には遅すぎた。貴方は、HO1 の返り血を大量に浴び、そしてその血液の主である HO1 は見るも無残な肉塊と成り果てていたのだ。

その漆黒の塊は肉塊と成り果てた HO1 に覆いかぶさり、そしてそれは蠢いてびくともしなくなってしまうだろう。

先ほどまで傍にいた HO1 の残酷な殺害現場を目撃してしまった HO2 は  
SANC1d4/1d8



## ▼HO 別シーン

### ※KP 情報

▼絶望させるものの描写をし、HO2 の SANC 処理後に個別描写を行う。ここらかは HO1 が「ディスパイアに」寄生されるため 今シナリオの特殊処理 (p.14) における【ディスパイアの処理】を適応する。

### ▼HO1 個別描写

#### 【描写】

——貴方の視界は、一瞬にて暗闇に包まれる。

最後の言葉を残す暇も与えられず、自分の体が潰されていく感覚をはっきりと認識した瞬間にはもう、貴方の眼前にはその漆黒の塊が迫っていたからだ。

訪れた暗闇の中、ふと目の前に誰かいることに気がついた。それは先ほどの少女だ。

少女は先ほど変わらぬ表情で貴方に近付くと、先ほどと同じ紙を握りしめ

貴方にそれを渡すと「遺書屋さん、これを神様に届けて欲しいの」と、突然そのような事を言うだろう。

自身が一度怪物のようなものに殺されたことを思い出し、眼前の不可解な出来事に SANC1/1d4

・少女は悲しそうな顔で、探索者にその紙を渡す。中を見てみてもその紙にはなににも書かれていないが、少しその紙を触った際に違和感を覚える。

その違和感は今はっきりとはわからない。

・少女に何か質問しようとするならば

彼女は「その光が神様に届いた時、貴方もきっと助かるから…」と何かを必死に訴えかける。しかしその言葉はだんだんと擦れ、途切れていき、淡い光と共に彼女の姿は無くってしまう。

・その少女の姿が完全に消えたのを認識した瞬間、HO1 の意識も途絶えてしまう。

## ▼HO2 個別描写

・目の前には HO1 の死体を覆って動かない黒い肉塊がある。  
攻撃してもびくともせず、触ろうとすると強い痛みが走り長時間触ることができない。

・ふと、目の前に先ほどの男が書いた遺書が先ほどの衝撃で一部破れており、床に散らばっているのを見ることができる。  
そこまで粉々にされているわけではないため、遺書の内容を読み取ることができだろう。

### 【帽子の男の遺書】

「奈々へ。

こんな父親ですまない。せっかく母さんの元に行けた君を、  
神の力を借りてこちらに戻そうとした僕に罰が下った。でもあの本に書いてあることに頼るしかなかった。

君を化け物にしたかったわけではないんだ。

本当に、すまない。

僕もここまで堕ちてしまった。君に今度こそ光と明日がありますように。」

・少し時間が経つと、突然 HO1 を覆っていた黒い塊が動き始める。  
以下の描写を行う。

### 【描写】

——その肉塊は先ほどまで HO1 の死体に覆いかぶさりびくともしなかった怪物が、  
突如の大きく動き始めた。黒い塊となったそれは  
やがてだんだんと質量が減っていき、  
煙のようにほとんど消えて行ってしまうだろう。

そこには、先ほど目の前で殺害されたはずである HO1 が、怪我もしておらず五体満足の状態で倒れていたのだ。

HO2 は SANC0/1

・しばらくすると、HO1 も目を覚ます。  
ここで再度探索者同士は合流となる。

## ▼光

### ※KP 情報

突然の HO1 の異変に戸惑うかもしれないが、  
この状況の詳細を知るためにも帽子の男（糸繰 彰人）の家に  
向かうのがいいだろう。まだ希空に頼まれた本も回収できていないからだ。

ここでは、男の家に向かう際の描写という扱いとなっているが、  
この描写前に何らかの形で強い光を当てられた場合は先に、**HO1 は光に恐怖心を抱くようになってしまっている事**を描写すること。

### 【描写】

——貴方達が本の回収を行うため男の住む場所に向かう際、人気のない場所を歩いていくことになるだろう。

しかし、ふとチカチカと点滅する蛍光灯の下を通ろうとした時、  
HO1 は何故か点滅するその光にさえなぜか「怖い」という感情が湧き上がってくる。  
気のせいだと思い込みそのまま先を行く HO2 に付いて行こうとすると、その光に当てられた瞬間、大きく脈打つ音が聞こえた。

それは体の内側に何かいるかのように、全身に痛みを感じるだろう。HO1 の脳内に「ここから…出して…」と囁くような無気味な声が聞こえてくる。しばらくすればその痛みはゆっくりと引いていき声も聞こえなくなるが、HO2 から見てもその異常性はすぐに分かるだろう。

突然の HO1 の異変、自身の体の異変に SANC1/1d3

### ※KP 情報

・HO は光に対してなぜか恐怖心を抱くようになってしまっている。  
この描写ではダメージは入らないが、探索中に強い光を浴びてしまった場合、回復不可のダメージを受けてしまう。詳細は[今シナリオの特殊処理 \(p.15\)](#)における【ディスプレイアの処理】を適応する。

## ▼古びたアパート

---

### 【描写】

――男が今住んでいる場所を探し住所に向かえば、そこには廃墟と言ってもおかしくないくらいに古びたアパートが立っている。あたりの建物も今は使われているかわからない古びたもので、ここも人気は無い様に思えるだろう。

入り口を見渡してみれば、ひとつだけ新聞が溜め込まれた扉があり、ドア周りの植木鉢ももう花は植えられておらず、雑草が伸び放題である。

おそらく、それ以外の部屋は使われていない様子から、この扉が男の家なのだろう。

・扉には鍵がかかっているが、ずいぶんと古いため、

<STR×5>で壊すか、<鍵開け>を行い開けることができる。

・もし周りを調べるのであれば、植木鉢に<目星>を行うことができ、成功すれば小さな植木鉢の下に鍵が隠してある。

その鍵で開けることも可能だ。

### ●帽子の男（糸繰 彰人）の家

・中は非常に散らかっており、ゴミ屋敷と言っても過言では無い。

まるで空き巣に遭った後の様な酷い有り様と成り果てている。

男の家の中で調べられるのは、机、本棚、クローゼットの3箇所だ。

### ●机

・机の上はタバコの吸殻や数ヶ月前の新聞が置かれている。

他にもゴミだらけで机の上は見えない。

何か特筆して机の上で気になるものはないが、ふと机の近くにゴミに埋れた置物が置いてある事に気がつくだろう。

20cm ほどの軽い素材でできた置物で手が台から伸びて口のようなものがついている。何かのお土産だろうか。

台に書かれている文字はかすれているが、<目星>で辛うじて「Y'golonac」と書かれていることが分かる。<英語>または<知識>で「イゴーロナク」と書かれているのが分かるが、こういった意味合いなのかは探索者は分からない。

## ●本棚

・本棚には様々な本が並べられているが、市販の本がほとんどだ。しかしその中に目立つ赤いカバーの本を見つけることができる。希空の言っていたもので間違い無いだろう。本の状態を確認する、または中を見ようとするのであれば、本は日本語では無い言語で、さらに文字がかすれてしまっているためうまく読み取れないが、一枚のメモが挟まっている。そのメモには急いでいたのか、乱雑な手書き文字で本の一部翻訳がされている。

### 【雑な翻訳メモ】

「それは、暗闇と共に有り。ばぐ＝しゃあす それは死者を蘇らせるもの。  
落とし子を引き連れ、 贅を貪り食うが、  
光ある場所には来ず。 光を嫌う。  
ばぐ＝しゃあす 消えしとき 死者はあるべき姿に戻る。」

(以下は何かの方法について記されているが、日本語で書いてあるものの、意味不明な何かのやり方が書いてあるだけだ。すぐに理解することはできない。)

### ※KP 情報

この翻訳したメモは糸繰 彰人が書いたものだ。  
<アイデア>で遺書の文字と筆跡が同じことに気付いていいだろう。  
何かの方法については、メタ的発言をしてしまうと「バグ＝シャースの招来」だが、この場面で呪文を習得する事はできない。

## ▼グラーキの黙示録第十二巻

赤いカバーの本を見つけた後、この本棚に<目星>をさらに振る。  
成功した場合、赤いカバー本とはまた別のさらに古そうな古書を見つける。  
もし、探索者が読もうとした場合以下の描写を行う。

### 【描写】

—あなたは、手に取った古書のページを開く。  
…そう、「開いてしまった」のだ。  
あなたがその本を開いた瞬間、そのページに広がっているのはあなたの知らない言語のはずなのに、なぜかその文章が読めてしまう。  
「その本のタイトルは『グラーキの黙示録第十二巻』」

なぜか本のタイトルまで頭の中に入り込み、  
あなたの目はその文章に目を滑らせ、次々と内容を理解しこの本の文面全てが意味する1つのものにたどり着きそうになる。

「それは悪意に宿るもの…その名は…」

しかし、あなたがその先の文章に目をやろうとしたその時、  
一枚のメモが挟まっており文章が見えなくなっている。メモに目線が行き、文章が読めない事に気づいた瞬間あなたは我にかえるだろう。

「これを読んではいけない」「これは危険な本だ」

そうあなたは理解し、すぐに本を閉じるだろう。すると先ほどのメモが勢いよく本を閉じた影響で足元に落ちたのだった。

得体の知れない奇妙な本を解読しそうになってしまった探索者は  
SANC1/1d4

#### ※KP 情報

お察しの通り「グラーキの黙示録十二巻」、グレードオールドワンであるイゴーロナクを呼び出すためのものだ。

糸繰 彰人は娘を蘇らせる方法を探している際に予期せぬ形でそれを手に入れてしまったのだ。

以前希空の体に入る前、赤いカバーの本をもらったという人間化身の男と出会った原因はこの本を読んでしまった事である。

この本をもう一度見てしまうと正真正銘今度こそイゴーロナクが招来されてしまうため、KP はもう見ないように忠告する事。

・落ちたメモを確認するのであれば、以下のようなことが記してある。

#### 【挟まっていたメモ】

招来されたバグ＝シャースに少しでも細工をした。

それは特殊な落とし子であり、人々に寄生し絶望させるもの、

それを「ディスパイア」と呼ぶことにした。

ディスパイアは母体であるバグ＝シャースとは違い行動性が高く、対象となる人間を一度殺してその人物に寄生する。

寄生された人物は時間が経つとディスパイアに耐えられず死亡し、ディスパイアはまた別の人間に寄生する。

寄生された人物はその存在を知らぬ限りは自身が「ディスパイア」である事を自覚することができない。母体と同じ光が苦手なため、動けるのは夜だけだ。

日光にさらされればたちまち消滅する。

(続きがあるようだが、ここでメモは破られている。)

●クローゼット

・クローゼットの中にはしわくちやのワイシャツや、ハンガーにかけられたトレンチコートなどがある。トレンチコートは先ほど帽子の男が着ていたものと同じだ。おそらく替えだろう。

<目星>を行うことができる。

<目星>成功情報

・トレンチコートのポケットから、ジッポライターを見つけることができる。  
試しに火をつけなくとも、使えそうであることはわかっていいだろう。

※KP 情報

ここで火つけちゃうと光で HO1 に回復不可の 1d2 のダメージ入るからやめてあげようね。

## ▼迎えるは死者

・探索者が家の中を探索し終えたのを確認したら、探索者たちは<聞き耳+20%>で判定を行う。

### <聞き耳>成功情報

- ・外で何かを引きずる音が聞こえてくる。
- ・窓からではよく確認できない為、外に出て確認する必要がある。外に出た際に以下の描写を行う。

### 【描写】

——外に出ると、灯ひとつないこの暗いアパート前の駐車場に、3人の男らしき者たちが立っていた。彼らはボロボロのローブで体を隠しているが、その顔を見た瞬間、そこには「死者」の顔があったのだ。

遺書屋であり、多くの人間を殺してきたあなた達であればすぐに分かる。

暗い瞳と体温を失ったその顔色、他にも見受けられる特徴からしてそれは「生きていなかった」のだ。

しかしその男達はまるで自らの意思があるように、引きずっていた鉄パイプを持ち貴方達に襲い掛かろうとしてくるだろう。その姿はまるで映画などで見るゾンビのようだった。

死者が動くその姿を見た探索者達は SANC 1 /1d4

### ※KP 情報

ここで再度**戦闘ラウンド**となる。

今回の敵は少なくとも人の形ではあるが人間（生者）ではないため、

今シナリオの特殊処理 (p.15)における【**戦闘での特殊ルール**】は適応されない。もし束縛したとしても、遺書を書くほどの知性はないとすぐに察することができるだろう。

- ・アンデットは合計で3体いる。

HP が 0 になった時点で「**ディスパイアの権限**」によって頭が弾け飛び血文字があたりにこびり付くだろう。

「**ディスパイアの権限**」については

今シナリオの特殊処理 (p.15)における【**ディスパイアの処理**】を参照すること。



ステータス【アンデット】

(3体全員同ステータス)

STR：10

CON：8

POW：0

DEX：5

SIZ：12

HP：10

MP：0

DB：なし

武器：ひしゃげた鉄パイプ（小さい棍棒扱い）（25%）：1d6 ダメージ

## ▼血文字

---

・敵の頭は全て弾け飛んでおり、  
どのような殺害方法でも何故か頭だけが弾け飛んで血文字が床にこびりついている。  
戦闘終了後、以下の描写を行う。

### 【描写】

——死者であるはずの体からは、  
暖かくもないのに真っ赤な血が弾けた頭の原型が見えぬほどに床を汚している。  
それはよく見てみれば一つ一つ文字を書き上げていたのだ。  
いや、書き上げているというよりもそれは弾けとんだ頭から文字が飛び出したかのよう  
に、そこには文字が「こびりついていた」のだ。  
その文章はまるで彼らが人間だったかのように「ごめんなさい」「こんな怪物になり  
たいわけではなかった」と意識ある言葉で、  
まさに「遺書」のようだと感じるだろう。

得体の知れない血文字を見た探索者は SANC 1 /1d3



### ※KP 情報

この血文字は「ディスパイアの権限」で発生した現象であり、HO1 が遺書に惹かれているために彼らが「アンデットになる前の人間」の思考が遺書として血文字を作り上げている。

彼らはバグ＝シャースの影響で動かされているが、まだ微かに自我が残っているため、探索者たちにバグ＝シャースを退散させるためにそのうちの一体は血文字の中に地図を生み出し教会の位置を示している。

- ・血文字を見ると、  
一つだけ文字ではなく何かの図面を表しているものを発見するだろう。  
どうやらこの場所から少し離れた別の場所を簡易的に示しているようだ。  
<知識>または<アイデア>を行うことができる。

### <知識>または<アイデア>成功情報

- ・この場所か少し離れた場所にある廃教会の位置を表していることが分かる。  
周辺には木々が生い茂った場所があり、最近は近辺に高速道路が出来たために、工事の関係上そのうち壊されるであろう古い建物だ。
- ・血文字が表す場所はここから徒歩でそう時間もかからない事が分かる。  
光のなるべくない道を通らないといけないので通常よりは時間がかかるかも知れないが、無事たどり着く事はできるだろう。

## ▼真夜中の教会へ

---

### 【描写】

――血文字の表していた場所へ向かうと、工事用のフェンスの向こうには町から少し離れただけのこの場所にしては珍しいと思える程の木々が生茂る場所が見えるだろう。その奥には暗くて見えづらいが石造りの古い建物が見えるのがわかり、貴方達はそこへ向かうため、錆の付いた工事用の簡易的なフェンスを超えてその奥を進んでいく。

…ふと、近くについ最近できたばかりの高速道路が見える。

時刻はすでに 24 時になろうとしており、車通りもほとんど見受けられなかったが、一台のトラックがそこを通っていくのが分かるだろう。

トラックのヘッドライトの光が木々の隙間を通して微かに貴方達の元へと届く、…その瞬間また大きく脈打つ音が HO1 から聞こえた。

「出せ…ここから…」

脳内を揺さぶるかのような不快な声のようなものと、全身を駆け巡る痛み。

突然の出来事に自身の体を抑えるが、その殻を破ろうとついに HO1 の背中が一瞬膨張したように見えた。

しばらくするとそれはまた治り、声も聞こえなくなるが、自身の身の内で起こっていることを HO1 は察し、そしてそれを見ることしかできなかった HO2 も、共に時間がもう長くないと確信するだろう。

探索者達は SANC1/1d4

・ここでダメージは入らないが、この一瞬でまた HO1 に寄生したディスプレイアが蠢き始める。探索者たちは時間がないと確信できていいだろう。

このまま先に進めば、教会が見えてくる。

・教会に近づくと、教会の扉は半壊しており、教会の中にも草木が生い茂っていて誰かが入った形跡はほとんど見られない。

しかし、教会の前の少し開けた場所に、誰かが倒れている。

▼教会前の死体の描写を行う。

## ▼教会前の死体

---

### 【描写】

――教会の前、少し開けた場所に何かがあった。

それは…死体だ。それも頭だけがなくなっており、体だけが綺麗に残っている。しかし、その体に貴方たちは見覚えがあるだろう。

服装と体格、何より彼がいつも身につけている金色のアクセサリーとポケットからこぼれ落ちた金色に装飾されたライターが何よりの証拠だ。

そこに転がっていた死体は、貴方達が先ほどまで話をした人物「白石 希空」だった。

白石 希空の死体を目撃した探索者達は SANC0/1

・ 普段死体を見ても探索者は容易に SANC は発生しないが、多少関わりがある人物であり、先ほどまで話をしていた人物であるため SANC が発生する。

・ ライターは希空のもので間違いない。オイルが切れかかっており一回しか使用することができない。

・ 希空の死体を調べることができる。  
彼の死体には<医学>と<目星>を行うことができる。

## <医学>

- ・彼の死因は出血多量による即死。強い力で頭をちぎられているが、おおよそ人間のものとは思えない。
- HO1 が襲われ潰された時を思い出す。あれと同じようなものであると分かるだろう。また、この死体は死亡してから時間が経っており、今日の昼か夕方あたりに死んだものだと思われる。

### ※KP 情報

ここで異変に気づく者がほとんどだろう。

先ほどまで希空と話していたのに、この死体はそれよりも早く死亡しているのだ。であれば今日の 22 時頃にはすでに死体となっているはずの希空と話していたことになる。

それもそのはず。この死体希空本人のものであり、ディスパイアに殺されてから頭だけイゴロナクに奪われている。

今動いているのは希空の姿をした「イゴロナク」だ。

今回は体ではなく頭だけを奪っているが、それでも今シナリオではそれを吸収し人間化身となっているのでイゴロナク的には問題はない。

## <目星>

- ・彼のポケットからクシャクシャになった小さな紙の束を見つける。
- どこかで拾ってポケットに突っ込んだのか、シワがすごいが、ほとんどの紙が白紙だ。その中に一枚だけ、文字の書かれたメモを発見する。

### 【メモの破片】

またディスパイアには「権限」という特殊な効果をもち、寄生された人間に大きく関わっているものが、「ディスパイアの近くで発生した死体」に影響することがある。

寄生されたディスパイアを取り除けば、元々それが死者ではなく生者であればディスパイアに殺害される前の生者に戻るが、元々死者に寄生していた場合は、あるべき姿に戻る。

母体が居ない場合、ディスパイアは最後に寄生された人物が死んだ時点で退散する。

ディスパイアが寄生した人物が死ぬ前に取り除くには、母体であるバグ＝シャースを日光、または炎の光など強い「光」で追い払い、後に（ここでメモは破られている）

・白紙の紙束の方も触ると何か違和感を覚える。

HO1 は少女から貰った遺書と同じ紙であることが分かる。

この紙に対してここで<アイデア+20%>を行うことができる。

#### <アイデア>成功情報

- ・この紙は、普通の紙ではなく特殊な素材でできており、  
強い発火性があるものであることが分かる。少女が HO1 に渡したものと  
この紙束を一緒にして火をつければ強い勢いで燃えるだろう。

#### ※KP 情報

この紙を燃やし強い光を発することで、バグ＝シャースを退散させることができる。ただし、バグシャースが攻撃を行った時（覆いかぶさった）時に使用しないと、HO1 も強い光で 3d8 のダメージを受けてしまうため、今使用する事は避けるよう KP は忠告すること。

## ▼教会へ

### ●教会内

・希空の死体を調べ終わった後に教会に向かうのであれば、教会内は先ほど戦闘を行ったアンデットが**5体**いる。

・また、教会の奥には大きな十字架のオブジェクトがあるが、その台は中央から少しずれており、下に何かあるというのが入り口から見ても分かる。

しかし近づかないと詳細はわからず、怪物に見つからないようにそちらに向かうためには、＜DEX×5＞に成功するか、＜隠れる＞＜忍び歩き＞に成功する必要がある。もし失敗してしまった場合はアンデットの＜目星＞ロール（25%）を1体ずつ行い、気づいた数のアンデットと戦闘を行う。

この戦闘はアンデットとの＜DEX 対抗＞で離脱が可能であり、離脱した後にもう一度見つからないように向かうロールを行える。

#### ※KP 情報

ここではPLのアイデアなどでKPは技能にプラス補正を与えても良い。

（もし5体全員に見つかってしまった場合、かなり戦闘が厳しくなってしまうからだ。）

また、忍び歩きなどの技能に失敗しても、アンデットが全員目星に失敗したのであれば問題なく奥まで進めたことで良い。

アンデットのステータスは先ほどのアンデットと同一のものとする。

### ●地下へ続く階段

・教会の奥までたどり着くと中央から少しずれたその十字架オブジェクトの横には地下へ続く階段がある。おそらくオブジェクトの台部分で今まで隠していたものであり、動かされてから時間がたっていてしばらくこのままのようだ。

下は暗く、先に進むことができる。



## ▼地下

### 【描写】

——貴方たちは、地下へと続く階段を降りていく。

光の灯らない暗闇の中進んでいけば、そこには一枚の扉がある。

その扉を開いた瞬間、そこには何のために作られたのかわからないが、巨大な空洞があった。軋む扉の音が部屋に響き渡り、それに反応するようにして、この空間の奥で何かが蠢いたのだ。

それは多数の目と口で満たされた無気味な暗黒の塊だった。

HO1の体から這い出ようとしていたあの無気味な塊とも似ているが、それよりも大きく、強大なものだった。音に反応してそれは無数の目で貴方たちの方を確かに見やる。口のようなものを作り出しては床に贅として転がっている死体を覆いかぶさるようにして貪り食う。

その姿は、貴方たちが見た本の解釈内容とよく似ていた。

これが母体である「バグ＝シャース」という存在なのであれば、まずはこれを何とかしなければ、HO1の体は持たないかもしれない。

…目の前のそれは、死体を貪り終えたのか、覆いかぶさっていた口を戻して今度は新しい贅を探すかのように貴方たちに覆いかぶさろうとするだろう。

グレードオールドワン「バグ＝シャース」を目撃した探索者達は SANC1d6/1d20

・ここで、HO1、HO2 共に＜アイデア＞を行う。

（このロールは狂気状態でも振って良い。）

### ＜アイデア＞成功情報

あの黒い塊は、死体を覆い被さるようにゆっくりと貪っていた。

危険な方法ではあるが、あの中であれば、あの怪物にだけ

光を当てる事が出来るのでは無いかと思うだろう。

### ※KP 情報

・＜アイデア＞ロール終了後、バグ＝シャースのとの戦闘ラウンドとなる。

もちろんだが人間（生者）ではないため、

今シナリオの特殊処理 (p.14) における【戦闘での特殊ルール】は適応されない。

・この戦闘では敵を倒すことではなく退散を行うためのものである。

無闇に戦闘で倒そうとするのは得策ではない。

PL が行動に戸惑っている場合は、PC が所持している**可燃性の特殊な紙と破られたメモ**に関して再度確認させると良い。（バグ＝シャースは強い光で退散できる。）

・KP はなるべくこの行動を HO2 にやらせるよう促すと良い。

バグ＝シャースが HO2 に覆いかぶさった際に紙を燃やすのであればバグ＝シャースは直に強い光を浴びてしまいすぐに退散し、覆いかぶさっているので HO1 にもダメージは入らない。HO1 が行う場合、回復不可の 3d8 のダメージが入るため注意すること。

退散した時点で戦闘を終了し、**▼神を葬った後の選択**の描写と処理を行う。

## ▼神を葬った後の選択

---

### 【描写】

——それは鳴き声とも悲鳴とも言えぬ奇怪な音だった。  
貴方が放ったその「光」が、暗闇を支配していたその神の体を焼き焦がしていく。  
覆いかぶさろうとしていたその口も痛みで悶え苦しむ母体へと戻り、やがてそれは飲み込んだ光を吐き出すことができずに浄化されていくだろう。  
眼前の神は煙のように消えていってしまい、しばらくあたりに静寂が訪れる。  
…しかし、それも長くは続かない。もう一度、あの脈打つ音が HO1 から聞こえたのだ。体にまた痛みが走り、HO1 はその場に膝をつく。  
もう動くこともできず、もう時は迫っている。母体であろう存在を追い払うことができたが、未だに HO1 の中にいる脅威は去っていないのだ。

…そんな中、ふと奥から拍手の音が聞こえてくる。  
「まだ耐えられているんだ。…なかなかしぶといねえ。でも気に入った。」  
その声には聞き覚えがあった。  
貴方達がそちらに目をやれば、そこには「白石 希空」の姿があった。  
希空は拍手する手を止め、ニタリと口角を釣り上げる。  
「遺書屋である君たちのその歪んだ顔を見てみたかったのもあるけど、やはりここまでできたってことは、僕が望んだものに間違いはないようだ。」  
彼は勝手に話を進め、貴方達の意見を聞こうとせずとある提案を持ちかけくるだろう。  
「さて、そろそろ時間だ。ディスプレイももうすぐその殻を破る。  
まあ母体がいなくなったしそのあと消滅しちゃうけど、そこにいる遺書屋さん…  
あー、お届け担当だったかな？その子、僕が助けてあげてもいいよ？」

「でも、条件付きだ。HO1 をディスプレイから離してあげる代わりに、HO2、君の身体に僕に頂戴？あははっ！なんでそんなこと言うのかって顔しているね？  
君たちも分かっているかも知れないけど僕は君たちの知ってる「白石 希空」の体を借りているだけの者さ。でも、彼の体は少々僕には合わないようだ。もっと墮落した者が良い。…そう、HO2、君のように血で手を染めるような者…とかね？」

「時間がないのは君たちも分かるだろう？さあどうする？残念ながらディスプレイをどうにかする方法自体は僕の頭の中にしかないから、君たちはこのどちらかの選択を取ることはできないよ？」彼は貴方達に笑いかける。  
突然貴方達に渡された選択、貴方達は何を選択するのか。

### ※KP 情報

この選択の時点で、希空に質問を行う事はほとんどできないが、PC 間での会話は自由に行って構わない。HO1 はあまり動くことは出来ないが、全く動けない訳では無い（最終戦闘に行った場合、戦闘を行うこともできるため）

この希空の選択肢に対して探索者はどうするか決めなければいけない。

制限時間は無く、PL が答えを決定するまでこの談義を続けて良い。

もし HO2 がこの提案に乗り希空（イゴーロナク）の元に行くのであれば▼LOST END2となる。

HO2 が提案に乗らず、そのままアクションがない場合は▼LOST END1となる。

KP はなるべく今までの情報を読み返すように忠告し、

一度だけ＜アイデア＞を行わせて良い。なるべくこの＜アイデア＞は行ってもらい、二人とも失敗した場合、ヒントは伝えない。

成功した場合は「ディスパイアの権限の影響で、先ほど殺害したアンデットのわずかな人間思考が血文字として浮かび上がっていた。希空はたった今「方法は自身の頭の中にしか無い」と言った。ならば彼を殺害すれば…？」

とヒントを描写する。

ヒントが無い場合も希空を攻撃する宣言があった場合、最終戦闘の描写を行う。

つまりこいつを殺せば万事解決。

最後まで殴れ！白石希空。お前の頭の中身をさらけ出させれば良いんだよ（by.制作者）

## ▼喰う悪意との戦闘

・希空に戦闘を仕掛けようとする、または武器を構えるなどの「希空との戦闘」を行う姿勢になった場合、以下の描写を行う。

### 【描写】

「ふーん…そうか、僕を殺そうって言うの？言っておくけど僕は遺書なんかそんなもの書いたりしないよ？」

「ああ、そう言う意味ではないみたいだね。そうか…ディスパイアの権限を使おうとしているのか。面白い！殺せるものなら殺して見なよ！」

彼は笑い、その手を貴方達に向ける。

その瞬間、彼の掌には大きな口が現れた。舌を垂らしたその口には多くの鋭い牙が生えており、それは獲物を狙うかのように、口を開き襲いかかってくるだろう。

対する貴方達も戦闘の体勢を取る。

HO1 も少し時間を置いたおかげでまだかろうじて動くことができる。

さあ、遺書屋の仕事はまだ終わっていない。

…これは堕ちた者同士での殺し合いだ。

### ※KP 情報

ここから**戦闘ラウンド**となる。HO1 も HO2 も戦闘に参加できる。

ここで KP は<1d3+4>のロールを行い、この戦闘の**制限時間**を決定する。

決定した制限ターン内に呪文が唱えられなかった場合、エンディング分岐となってしまう為注意。

戦闘が終了しても油断してはいけない。膨大にばらまかれた彼（人間化身）の知識の中から、目的となるディスパイアの解除方法だけを探さなければいけない。

もし<目星>ロールにお互いに失敗してしまった場合、さらに 1 ラウンド経過する。

### 【ステータス：白石希空？（イゴーロナク人間化身）】

Str：13

Con：12

Dex：14

Pow：28

App：9

Int：30

Siz：15

Edu：18

HP：38

DB：なし

【技能】

手で貪り食う：80% … 戦闘内で治癒不可の 1d4 ダメージ

（戦闘内では治療できないが、シナリオ終了後は回復可能）

回避：30%（1R で 2 回避可能。1 回目は通常値、

二回目は半分（15%）で行う。）

●戦闘終了後

【描写】

——「クソッ！！この体もやはり不良品かッ…！小賢しい人間どもなんかに…！！！」希空はそう叫ぶと、大きくよろめき、  
…次の瞬間、その頭が弾け飛んだ。しかし、それは今までの者達とは非にならないほどの情報と言葉が、血文字としてこの場所全体に散らばったのだ。  
この床を埋め尽くすほどの文字列の中、貴方達は目的となる方法を探さなければいけないだろう。

・希空の HP を 0 にした場合、戦闘は終了となるが、  
まだ終わっていない。＜目星＞に成功し、ディスプレイを取り除く呪文を見つけなければいけないのだ。もし 2 人とも失敗した場合、1 ラウンド経過させもう一度行うことができる。これが成功するまで続く。  
戦闘自体はは終了するが、目星に成功しない限り制限ターンの経過は引き続き行う。  
もしここで制限ターン内に間に合わなかった場合、▼LOST END1 となる。

▼制限ターン内に倒せなかった場合

・もし制限されたターン内に希空の HP を 0 に出来なかった場合、HO1 の体は限界をむかえ、動かなくなってしまう。もうディスプレイが HO1 の体を打ち破ろうとしている姿を楽しそうに見ながら、希空は HO2 に最後の提案をしてくるだろう。

「あーあ。もう時間切れのようだね。さて、どうしようか？楽しかったし、もう一度選択する余地をあげよう。君の身体をくれるなら、HO1 は助けてあげるよ？」

・ここでは HO1 は話すことはできるが動くことはできない。

選択は HO2 が行うことになる。希空の元に行くのであれば▼LOST END2 となり、HO2 がその提案に乗らない。またはしばらく PC が悩むなど、選択に躊躇してしまった場合（PL もすぐに決められずリアル時間で 10 分以上経過してしまったなど）、「ダメだね。時間切れだ」と希空は笑い、▼LOST END1 の描写を行う。

## ▼END 分岐

### ※KP 情報

エンド分岐は以下の通りだ。

基本的に ▼神を葬った後の選択 にて希空の提案にどう反応するかが大きな分岐となる。それ以外のエンディング分岐点は以下のエンディング詳細か、各ページの KP 詳細を参照する事。

### ▼TRUE END 【「遺書屋」】

＝希空の提案に乗らず希空と戦闘を行い、  
制限されたターン内に希空を倒して呪文を唱えた。

### ▼LOST END1 【血文字の遺書】

＝HO2 が希空の提案に乗らず、何もアクションを起こさなかった。  
または、制限ターン内に希空を倒すことができず、  
HO2 が最後の提案にすぐ乗らなかった。  
または、希空を倒したが、呪文を唱える前に時間が来てしまった。

### ▼LOST END2 【最後の遺書】

＝HO2 が希空の提案に乗り身体を渡してしまう。  
または、制限ターン内に希空を倒すことができず、HO2 が最後の提案にすぐ乗った。

### ▼BAD END 【堕ちた者達に陽の光】

＝朝まで行動しなかった。  
または強い光を浴び HO1 の HP が 0 になってしまった。  
た。

### ▼DEAD END 【絶望させるもの】

＝戦闘での探索者の全滅。または片方ロスト後にもう片方が自殺を行った場合。



## ▼TRUE END【「遺書屋」】

### ※KP 情報

希空の提案には乗らず、希空に戦闘態勢をとるなどすれば希空と戦闘となる。

(▼嗤う悪意との戦闘を参照)

制限されたターン内で希空の HP を 0 以下にし、呪文を唱えることができればこのエンディングとなる。

以下は呪文を唱えた所からの描写となる。

——貴方は、その棒大な知識がばらまかれた血文字の中から、寄生を解く呪文を見つけ出す。

不慣れではあるがそこに書かれた通りに貴方が言葉を口にすれば、

全て唱え終えた瞬間、HO1 の体から黒い何かが勢いよく這い出た。

その衝撃は強く、HO1 は床に叩きつけられるが、それは奇声を上げながら悶え苦しみ、再び HO1 の元へと戻ってきたのだ。

叩きつけるように漆黒の塊は HO1 に覆いかぶさり、やがてその漆黒は淡い光と共に消滅していく。HO1 は不思議と痛みはなく、一瞬意識が暗転したかと思えば、意識が戻ったと同時に、あの漆黒の塊はどこにも居なくなっていた。目の前にも、自身の内側からもそれは消え去っていたのだ。

HO2 もいなくなったその怪物と残った HO1 の様子を見て分かるだろう。

絶望させるもの「ディスパイア」はもういない。

・ここで自由に RP などを挟んでも良いだろう

——気がつけば随分と時間が経ってしまった。

貴方達が廃教会から出れば、外は薄明るく、時期に陽の光がまたいつもと同じように朝を告げるのだろう。

先ほどまで恐れていた朝も今となっては、何もない。

もう光を恐れる事はない。もちろん、貴方達にとって必要なのはものではないかも知れないが、まだ終わってはいないのだ。

2 人の「遺書屋」の仕事は、これからも続く。

貴方達が残していくのは死者が伝える「言葉」であり、

貴方達が二人でこれからも交わしていくのは生者である貴方達の「声」である。

二人の「声」がまた聞こえる。そしてその声が聞こえた時、貴方達を知るもの達はみな声を揃えて言うだろう。

「「遺書屋」が来た」と。

…そうやって墮落した世界で、これからも紙を渡すのだ。

TRUE END 【「遺書屋」】にて  
シナリオを終了する。

**【TRUE END 生還報酬】**

全員生還+1d10

TRUE END+1d6

希空（イゴーロナク）の殺害に成功した+1d6

クトゥルフ神話+2%

**【詳細】**

・HO1 に寄生していたディスパイアは退散し、  
お互いにまた遺書屋としてこの裏社会で生きていくこととなる。  
もちろん、遺書屋を続けるか否かは探索者達次第だ。以降継続探索者として使用可能だ。

## ▼LOST END1 【「血文字の遺書」】

### ※KP 情報

HO2 が希空の提案に乗らず、何もアクションを起こさなかった。

または、制限ターン内に希空を倒すことができず、HO2 が最後の提案にすぐ乗らなかった場合、このエンディングとなる。

また、希空を倒したが、呪文を唱える前に時間（制限ターン）が来てしまった場合もこのエンディングとなるため注意。

——ふと、脈打つ音が聞こえる。

それは、「最期の音」だ。

それが聞こえた瞬間、HO1 の悲鳴とも叫び声とも言えない最期の「声」がこの空間に響き渡った。

それは、生者である者のみが残せるものであり、まもなく死者となる彼（彼女）の意思の無い最期の「言葉」だった。

・ここで HO1 は死ぬ前に何か言葉を残すため RP をしても良い。

その「言葉」を最後に、その体はいとも簡単に弾け飛んだ。

殻を破ったその漆黒の塊は、形成した多数の瞳で貴方のことを見やるが、貴方を襲おうとはせず、母体がない事を確認するとそれは煙のように消え去ってしまうことだろう。

「あーあ、残念残念。じゃあ、これからは一人で頑張ってね「遺書屋さん」。」

この様子をただ楽しそうに見ていた希空も貴方の元から去っていく。彼の背中を追う前に、ふと貴方は足元に目が行く、そう。そこにはあの血文字があった。

権限か何かはもう今はどうでもよかった。そこにあったのは HO1 の無残な死体から溢れ出た文字の羅列…そう。貴方に向けた「遺書」だ。

・もし遺書の内容を HO1 が決めている場合、ここで開示すると良いだろう。

——死んでも、その言葉は残り続ける。

それがたとえ紙に書かれていないものだとしても、

目に映ったその内容は貴方の脳内にこびりつき、離れようとしないうだろう。

それが貴方達が今まで書かせ続けてきた「遺書」という存在だ。

…それが、死者の残した「言葉」という存在だ。

## LOST END1【血文字の書屋】にて

シナリオを終了する。

### 【LOST END1 生還報酬】

生還 + 1d10

LOST END1 + 1d6

クトゥルフ神話 + 2%

### 【詳細】

・HO1 はディスパイアに身体が耐えられなくなり、死亡してしまう。

このエンドでは **HO1 ロスト**、**HO2 のみ生還**となる。

物理ロストなので救済シナリオには参加可能。

残された HO2 は、HO1 が死亡したことによる **SANC** を行う。

数値は KP と PL の相談で任意で決めると良い。

（仲の良さや関係性にもよるからだ）

遺書屋を続けるか否かは探索者達次第だ。HO2 は以降継続探索者として使用可能。

## ▼LOST END2 【「最後の遺書」】

### ※KP 情報

HO2 が希空の提案に乗り身体を渡してしまう。

または、制限ターン内に希空を倒すことができず、HO2 が最後の提案にすぐ乗った場合、このエンディングとなる。

——「交渉成立だね。」

希空はとても嬉しそうに微笑むと、HO2 に近づく。

HO2 の目の前に立ったその瞬間、希空の体から巨大な影が伸びた。

この暗闇でよく見ることができないが、それには「頭」が存在していない大きな人型の「何か」だった。それはゆっくりと抜け殻となった希空の頭を叩き潰し、HO2 に向かってその腕をゆっくりと伸ばした。

・ここで HO2 は死ぬ前に何か言葉を残すため RP をしても良い。

その腕が HO2 に届いた瞬間、

HO2 の目の前には大きな口があった。それを最後に貴方の視界は暗転し、

HO1 は大きな影に覆いかぶさられて HO2 の姿が見えなくなってしまう。

しかししばらくすると、その影は薄れていき、そこには見覚えのある人物が立っている。そう、HO2 だ。しかし貴方はすぐに確信する。

…それが「もう彼の物になってしまった」と。

「…たしかに貰ったよ。この体…次はこの遺書屋の体で何をしようか…楽しみだなあ。さて、約束通り、君は助けてあげるね。」

聞き覚えのあるその言葉が何かを呟いた瞬間、

貴方の体から黒い何かが勢いよく這い出た。

それは寄生をあげながら悶え苦しみ、再び HO1 の元へと戻ってくる。

叩きつけるように漆黒の塊は貴方に覆いかぶさり、やがてその漆黒は淡い光と共に消滅していく。

…貴方は不思議と痛みはなく、一瞬意識が暗転したかと思えば、

意識が戻ったと同時に、あの漆黒の塊はどこにも居なくなっていた。目の前にも、自身の内側からもそれは消え去っていたのだ。

そしてあたりを見渡せば、HO2 の姿も消え去ってしまっていた。

さらに目の前には、先ほどまでなかったはずの紙が置かれている。

「じゃあ、約束通りこの体は僕のものだ。ああ、でもそれは君に当てた物みたいだしあげるよ。遺書屋である君達には興味が湧いたけど、僕自身は遺書なんてものには何の興味も無いしね。じゃあね。「遺書屋さん」。」

聞き覚えのある言葉が何処かから聞こえ、それ以降何も聞こえなくなってしまう。

目の前にあるのは、そう、貴方に向けた「遺書」だ。

・もし遺書の内容を HO2 が決めている場合、ここで開示すると良いだろう。

——死んでも、その言葉は残り続ける。

その紙に書かれている言葉は、目に映った瞬間貴方の脳内にこびりつき、離れようとしないうる。

それが貴方達が今まで書かせ続けてきた「遺書」という存在だ。

…それが、死者の残した「言葉」という存在だ。

LOST END2【最後の書屋】にて  
シナリオを終了する。

#### 【LOST END2 生還報酬】

生還+1d10

LOST END1+1d6

クトゥルフ神話+2%

#### 【詳細】

・HO2 はイゴーロナクの人間化身として身体を乗っ取られてしまい、魂は何処かへと行ってしまふ。

このエンドでは **HO2 ロスト**、**HO1 のみ生還**となる。

特殊なロストだが、永久ロストでは無いため、救済には参加可能。

体も後に飽きたイゴーロナクによって処分されるだろう。

残された HO1 は、HO2 がなくなったことによる **SANC** を行う。

数値は KP と PL の相談で任意で決めると良い。

(仲の良さや関係性にもよるからだ)

遺書屋を続けるか否かは探索者達次第だ。HO1 は以降継続探索者として使用可能。

## ▼BAD END【堕ちた者達に陽の光】

### ※KP 情報

何らかの形で朝まで行動しなかった。または強い光を浴び HO1 の HP が 0 になってしまった場合、このエンディングとなる。

希空と朝まで連絡がつかないという状況を見て明日の朝まで時間を飛ばすことを考える PL もいるかもしれない。

KP はその場合 HO1 がどうなるかわからないと忠告すると良いだろう。

暗い所に HO1 を閉じ込めるなどの提案があったとしても、結局は長くは持たず、ディスプレイが HO1 の体を突き破り殺害してしまうからだ。それでも朝を迎えてしまった場合はこのエンディングとなる。

また、HO1 の HP が 0 になってしまった場合もこのエンディングとなる。

——ふと、脈打つ音が聞こえる。

それは、「最期の音」だ。

それが聞こえた瞬間、HO1 の悲鳴とも叫び声とも言えない最期の「声」がこの空間に響き渡った。

それは、生者である者のみが残せるものであり、まもなく死者となる彼（彼女）の意思の無い最期の「言葉」だった。

その「言葉」を最後に、その体はいとも簡単に弾け飛んだ。

殻を破ったその漆黒の塊は、形成した多数の瞳で貴方のことを見やる。

…次の寄生相手はお前だといわんばかりに。

ぐしゃり。と何かが潰れた音が、聞こえた気がした。

——ここは光の届かない場所。

墮落した者達が集まり、犯罪などに手を染める物達は「裏社会の人間」などと言われ、一般人の知らぬ場所で今日も悪に手を染めた。

そんな彼らが口々に噂しているのは、「遺書屋」という者達の噂だ。

彼らにとっては意味不明な殺し方だと言われ噂されていた「遺書屋」の二人が、忽然と姿を消したらしい。

この裏社会ではそう珍しい話ではないが、「話のネタがまた一つ消えたな」と残念そうに彼らの声を聞きながら、

「まあ、遺書なんて残したって、こんな堕ちた場所じゃ何の役にも立たないし、いいんじゃない？いてもいなくても一緒だよ。」

と、白石希空らしき、赤い瞳の人物は笑ったのだった。

——ここは陽の光の当たらない堕ちた世界。

土竜は陽の光を浴びてしまうと死んでしまうように、堕ちた世界の住人である貴方達に、光は未来を指し示してはくれなかった。ただそれだけだ。

ここには、「言葉」も「声」も残ってはいない。

そしていずれその紙も「遺書屋」という存在も書き消えていくのだ。

何も、残らない。

**BAD END 【堕ちた者達に陽の光】にて**

シナリオを終了する。

**【BAD END 詳細】**

・HO1 はディスパイアに耐えられなくなり死亡、HO2 も寄生されるがまもなく死亡してしまう。

このエンドでは**両者ロスト**となる。

物理ロスト扱いの為、救済には参加可能だが、BADEND からの救済はあまりお勧めしない。なぜなら戻ってきた時点で裏社会の多くの人間やイゴロナクの目に止まる可能性があるからだ。どうするかは KP の任意で決定して良い。



## ▼DEAD END【絶望させるもの】

### ※KP 情報

戦闘での探索者の全滅してしまった。

または片方ロスト後にもう片方が自殺を行った場合、このエンディングとなる。

以下は戦闘で全滅してしまった場合の処理だ。

自殺を行った場合はその時の状況次第で KP が任意の描写を行うこと。

——強い一撃を喰らい、意識が朦朧とする。

最後に声が聞こえてくるだろう。

「遺書屋も大したことないな。こんな紙切れになんの意味もないのに。」

それは、貴方達の存在を否定するかのような笑い声と共に遠のいていった。

——ここは陽の光の当たらない堕ちた世界。

今日も、この堕ちた世界のどこかに

絶望させるものが潜んでいることなど誰も知らず、突如姿を消した「遺書屋」の話をしながら彼らはまた、悪に手を染めるのだ。

## DEAD END【絶望させるもの】にて

シナリオを終了する。

### 【DEAD END 詳細】

・探索者の全滅によりこのエンドでは**両者ロスト**となる。

物理ロスト扱いの為、救済には参加可能だが、BADEND 同様 DEAD END からの救済はあまりお勧めしない。なぜなら戻ってきた時点で裏社会の多くの人間やイゴロナクの目に止まる可能性があるからだ。

どうするかは KP の任意で決定して良い。

## あとがき

---

はじめましての人は、はじめまして！  
イワシの化身であり、  
公開日を伸ばすことが常時と化してきたポンコツの茶々丸と言います！

「ドロップアウトディスパイア」を見てくださり  
ありがとうございます！今回もまた性癖でシナリオを生成してしまいましたが、  
ぜひ楽しんでいただければなと思っております…！

今回はアウトローシナリオを生成しました。  
本来は継続ありの殺し屋にしようとも考えましたが、  
特殊なアウトローボディ見たいという願望のままに作ったらいつのまにか  
遺書屋なるものが生まれていました。  
なんでだろう。

でも遺書ってロストした後に設定付けるのもいいけど、あらかじめ持っていて  
相方に最後予期せぬ形で渡すのが大好きです。  
そして「他人に遺書書かせるのもカッコいい（気がする）」と神からのお告げがあっ  
たので欲望のままに作りました。  
シナリオは作者の性癖純度 100%だから仕方ない。

ここまで読んでくださりありがとうございました！  
今日も元気に SAN チェック！



## Special Thanks !

---

【シナリオ/イラスト製作者】

茶々丸

(<https://twitter.com/matumaru1232>)

※このシナリオは、神話生物の独自解釈を含みます。

この物語はフィクションです。架空の団体、職業などが登場しており、実在の団体などは一切関係ありません。

動画作成やリプレイはご自由に制作、公開していただいて大丈夫ですが、ネタバレが入ることを明記してください。

その他質問がありましたら、ツイッターの DM にお気軽にどうぞ。

【NPC 立ち絵、マップ画像などの DLC はこちらから↓】

(ドロップボックスデータです。

Zip ファイルなどは現在用意しておりませんのでご了承下さい。)

[https://www.dropbox.com/sh/qckhoq3dueqvypt/AADDUXF\\_KDawX9uKdBAUuwIsa?dl=](https://www.dropbox.com/sh/qckhoq3dueqvypt/AADDUXF_KDawX9uKdBAUuwIsa?dl=0)

0



個人サークル「茶鯛」